



名古屋NGOセンター ● 会報
NGO=Non Governmental Organization

vol.122

2020.11 (年2回発行)

さんぐりあ

名古屋NGOセンターの主な活動

- ① 地域及び全国的NGOのネットワーク作り
- ② NGOスタッフやボランティアのためのセミナー実施
- ③ 一般市民へのNGO情報の発信
- ④ 地球市民教育のためのセミナー、フォーラム等の実施
- ⑤ 自治体、及び関係機関への提言・協力活動

さんぐりあとは、赤ワインにいろいろな果実を漬け込んでつくる飲み物です。
これを世界にたとえ、さまざまな果実(人々)の個性を損なわず、素晴らしいハーモニーが奏でられるようにと願いを込めて、名付けられました。



フィリピンのネグロス島の住民の方々に米を配りました (写真提供:特定非営利活動法人イカオ・アコ)

特集

～コロナ禍に立ち向かうNGO～

アンケートから見えるコロナ禍の実態

支援物資を送ることができなかつたり、研修生が日本に来られなかつたり、ボランティアスタッフが派遣できなかつたり。新型コロナウイルス感染症は、さまざまな形で海外の国々、人々を支援しているNGOやNPOの活動に大きな影響を与えています。さんぐりあ編集スタッフが取材した各団体の現状、活動状況などをお伝えします。

この会報は再生紙を使用しております



logo=designed by THREE

このロゴは[N]をモチーフにし、輪で構成したデザインです。
輪が集まり、その輪が上に伸びていくという
NGOのこれからの活動に期待を込めたものです。

～コロナ禍に立ち向かうNGO～

アンケートから見えるコロナ禍の実態

ダイヤモンド・プリンセス号でのコロナ感染が報じられていた頃には、誰も想像もできなかった展開となった。政府の対応策への批判が噴出する一方、最も苦しむ人々に支援が行き届かない状況が続いている。多くのNGOにとっても存続の危機を感じる場面があったことだろう。問題解決のためには、まずどこでどんな状況が発生しているのか、知ることが第一だ。そこで、名古屋NGOセンター会報編集委員は今年8月に加盟団体にアンケート調査と聞き取り調査を実施した。アンケートに回答のあった21団体の様子をまとめ、そのうちいくつかの団体にはインタビューを実施した。

(担当:内藤、久田)

1. 活動状況の概要

(1)「ほとんど活動できなかった」

海外支援やスタディツアーを行っている団体にとって海外渡航ができない現状は大打撃だ。その中で遠隔ミーティングは多くの団体が活用している。一方で、国内活動の障害となったのが、大人数での集会や講演会ができなかったことを挙げた団体が多い。

(2)「オンラインを通じた活動を行った」

NGO内部の会議はオンラインで可能だが、公立学校や大学での講演の場合でもオンラインで開催した例がある。不特定多数の接触が想定される企画は実施が難しいようだ。

(3)「対面での活動を行った」

参加人数を減らして講師招致に踏み切った小学校もある。担当者の考え次第ということか。すでに海外にスタッフが確保されている団体は、現地の規制の範囲内で活動でき

ている。また個別の相談などを行っている団体は、6月以降は再開している。

2. 財政状況について

(1)「悪化した」

人を集めての企画を収入源としている団体では大きな打撃となった。それ以上に海外の支援先での経済的困窮に手を差し伸べられない状況が深刻さを増している。

(2)「あまり変化なし」

一方で寄付金収入は変化なしの団体が多い。中には在宅期間が長期化しネット閲覧時間が増えたことから寄付や連絡が増えたという団体も。また医療従事者支援プロジェクトの寄付をネットで呼びかけたところ、予定の倍の金額が集まった例もある。クラウドファンディングを効果的に行うためにもホームページやブログの充実は非常に重要だ。

■アンケート項目

質問1 2020年前半の活動について

- (1)ほとんど活動できなかった
- (2)オンラインを通じた活動を行った
- (3)対面での活動を行った

質問2 2020年前半の財政状況について

- (1)財政が悪化した
- (2)あまり変化はなかった

■アンケート結果集計:複数回答、無回答を含む

- 質問1 (1)9団体 (2)13団体 (3)7団体
- 質問2 (1)7団体 (2)13団体

■インタビューに回答した団体(50音順)

- ・アジア車いす交流センター(海外支援) ・アジア保健研修所(保健医療)
- ・アムネスティ・わや(国際人権) ・イカオ・アコ(フィリピン環境)
- ・外国人ヘルプライン東海(共生) ・多文化共生リソースセンター東海(共生)
- ・ベシャワール会名古屋(保健医療) ・ル・スリール・ジャポン(西アフリカ教育支援)

■アンケートに回答した団体(順不同)

キャンヘルプ・タイランド、地域国際活動研究センター、南遊の会、名古屋YWCA、日本バングラデシュ友好協会、ハンガーゼロ、ホープ・インターナショナル開発機構、ボラみみより情報局、オイスカ中部日本研修センター、タランガ フレンドシップグループ、まちづくりスポット、ムラのミライ、チェルノブイリ救援・中部

ご協力ありがとうございました。

コロナ禍における NGO・NPOの活動

多文化共生リソースセンター東海

在住外国人からの相談対応や関係団体との外国人支援で多忙を極めた。彼らはコロナ禍で収入が減り、所属する学校等の継続が困難になっている。また、帰国困難者の支援も行っているが、政府機関への対応はほとんど日本語のみなので、その補助業務で忙しい。

2019年度から新設された外国人「特定技能」制度の適用例が増えるかと、期待していたが、コロナのためにすべてがストップしている。技能実習生が特定技能へ転換しようとしても、受け入れ先が許可を得なければ採用できないし、働く側も日本語能力などの水準が必要。

財政面では、行政からの委託事業は年度の後半に集中しているため、研修会などが中止になれば非常に大きな打撃となる。(土井佳彦さん)

ル・スリール・ジャパン

支援先の西アフリカに渡航できず、必要な調査や活動ができず困っている。ただ緊急事態宣言解除後は国内の大学でのオンライン講義や高校・中学・小学校での対面での講演ができたことは幸이었다。財政的には渡航できないことが出費の削減につながり、また寄付は微増となった。今、最も懸念していることは、日本国内の感染者に対する矮小的な視点と、風邪ウイルスのように治療薬開発の難しいウイルスによる「感染」を過大、過小に判断する世論が海外活動にどのような影響を与えるかである。支援先のブルキナファソは隣国の武装勢力の侵入による治安悪化のため撤退を余儀なくされ、今後の活動国として調査を進めていたセネガルは、ヨーロッパとの交易も多く新型コロナウイルスの影響が不透明な状況である。現地の教員の置かれた状況が十分に理解されず、教員の能力に多くの責任を求める援助動向も見受けられるが、これまで通り必要に応じハードとソフトの支援を継続できるよう準備を続けたい。(石田純哉さん)

イカオ・アコ

日本人スタッフはすべて引き上げ、現地スタッフに頼っている。フィリピンでは現在の政権による緊急事態宣言により、マスクをつけないと逮捕されてしまう貧困者が多発。罰金も払えないので奉仕活動をさせられるが、マスクが買えないため、また逮捕の繰り返しとのことだ。支援先の西ネグロスでは住民がマングローブの苗を育て、イカオ・アコが買い上げているが、その活動もSNSで公表できない。住民へのコメ配布事業はできた。

財政面では今まで寄付してくれた企業がコロナ禍による業績不振のために、寄付を打ち切った。外務省による委託事業を受けることができず助成金が獲得できなかったが、スタディツアーの中止の打撃は大きい。(木村容子さん)



海外研修生とオンライン打合せ：AHI

アジア保健研修所 (AHI)

毎年3月に実施していたスタディツアーを中止した。国際研修も今年は中止。来年の参加者を決定し、オンラインで彼らと交信し来年に向けた準備を始めた。また、例年、実施してきたオープン・ハウスも今年はオンライン実施となった。さらに外部からの講師依頼も、オンラインでの実施となった。Zoomではワークショップなどいろいろなことができることがわかったので日々研鑽中。一方で、日進市の小学校でのワークショップは対面で行うことができた。秋には県立高校での講演会も行う予定だ。新課程の6年生の社会科教科書にAHIが掲載されているので、認知度が高まることを期待している。(林かぐみさん)

アジア車いす交流センター (WAFCA)

タイ、インドネシア、中国で障がい児へ車いすの提供や、教育支援活動をしているが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、日本スタッフは現地に行くことができなくなり、現在はローカルスタッフが現地の活動を回し、日本とはWeb会議で連絡を取っている。今は各国とも新型コロナウイルスの感染も多少落ちつき、新しい生活様式を取り入れつつ学校も再開されている。しかし、新型コロナウイルスの影響により、障がい児の家族が失業し収入の道を絶たれてしまい、障がい児が特別支援センターに通えなくなるなど厳しい状況が続いている。そこで「新型コロナ対策障がい児緊急支援」としてクラウドファンディングで支援をお願いしたところ、会員ではない方からの寄付が多く集まり、厳しい状況の中で寄付をしてくださる方々の存在に励まされた。

また、緊急事態宣言により県外への移動を抑える中で、オンラインで繋がる関係が多くなった。大分の学生から障がい分野における支援に関心があると連絡があり、その学生を中心に九州地方の学生を対象にオンライン交流会を開催する案が持ち上がるなど、距離を超えた活動が増えている。

スタディツアーなど現地との交流事業は全くできない状況のため、より簡単にクレジットカードで寄付できるようにするなど日本国内の寄付の仕組みを見直し、車いす病院(修理ワークショップ)活動の拡張を進めるなど、今は準備期間だと思ってできることに取り組んでいる。

コロナ禍の中で、私たちはオンラインインタビューやオンライン交流会の申し出など新しい試みをなるべく断らず受け入れようと思っている。また、今後の状況も分からないことが多いため、今判断できない問題に直面しても焦って答えを出さないことにしている。来るもの拒まず、結論を急がずの精神でコロナ禍においても出来ることから取り組んでいきたい。(熊澤友紀子さん)



WAFCA 車いす病院活動の様子

外国人ヘルプライン東海

当団体では毎月第3土曜日に外国人の困りごと相談会を実施しているが、3月4月は開催を見合わせた。5月は通訳者は全員オンラインでお願いした。相談者をオンラインにするということではできず、換気、消毒対策を施して実施している。6月以降は、通訳者は一部オンラインとして、矢場町にある栄東まちづくり協議会の事務所にて実施している。相談会以外でも新型コロナ関連の収入減少、失業、生活困窮の相談は9月になっても続いており、給付金、貸付金の申請書の記入補助、社会福祉協議会への同行支援も行なっている。相談者の国籍はフィリピン、ベトナム、ボリビア、インドなど多岐にわたる。短期滞在で日本に来て、帰れないで困っているというペルーの方の相談もあった。(後藤美樹さん)

アムネスティわや

会員同士の打ち合わせはオンラインで行ってきた。初めはZoomを使っていたが、アムネスティ日本支部より、Zoomは攻撃を受ける可能性があるので、使わないようにとの指示がきた。海外での人権侵害を扱っているので、政府からの攻撃を受けやすい。その後はTeamsを使った。主な活動としての人権侵害への抗議の手紙書きがコロナのために出来ないでいる。海外への航空郵便が飛ばないためだ。今はメールに切り替えてメッセージを送っている。(中島正人さん)

ペシャワール会名古屋

ペシャワール会名古屋では写真展、講演会や学習会においてペシャワール会の活動を宣伝したり、中部地区の会員への会報発送作業などを行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、講演会や学習会など人の集まるイベントが全て中止となってしまう、宣伝活動が思うようにできていない。また、会報発送作業も通常であれば、事務所に集まって情報交換や雑談をしつつ行っていたが、コロナ禍では集まりづらく、各個人で発送作業を行っていた。やはり集まる場がないと、コミュニケーション不足となり、活動への気力が削がれてしまう。新型コロナウイルスの影響が落ち着いたら、以前のように集まって作業をしていきたいと思っている。(八木巖さん)

当 法人が初めて外国の方を受け入れたのは、2019年4月。期待に胸を膨らませた介護技能実習生5名がインドネシアからやってきました。その後も順次、入国し現在までに21名の介護技能実習生を育成しています。

私は看護師を得て、看護教員として看護師の育成に携わっていました。その頃、大学院に社会人入学をし、多くのインドネシア人看護師と知り合いになり、インドネシアとの繋がりができました。彼らを研究対象とし、現地に足を運ぶうちに、想像していたより多くのインドネシア人が日本で働きたがっていることを知りました。折しも2017年11月から「介護」分野での技能実習生の受け入れが決まり、人手が足りない多くの施設で外国人スタッフの需要が高まることが予想されました。今までの蓄積してきたノウハウを生かして、『自分で受け入れをしてみよう』と思い法人を立ち上げました。

技能実習生は、来日後それぞれの職場で「実習」を始める前に日本語や日本で生活する上での

エッセイ
NGOの散歩道
第32回

**地域で受け入れる
技能実習生**

知識を学びます。2カ月の講習中は、ごみの分別から布団の上げ下ろし、ふすまの開け方の作法などの細かいところまで、日本の暮らしを学んでいけるように配慮しています。技能実習生というと、安い賃金で都合のいいように雇われて、失踪してしまうなどの報道もありますが、入国まもない時期にしっかり日本の生活を身に付けること、私たち日本人と信頼関係を築くことこそが、その後の日本の生活に深く溶け込めると考えています。

こういった当法人の活動を支えてくれているのが地域のバディさんたちです。バディさんは、実習生の見守り役として、一緒に料理をしたり、食事をしたり、買い物をしたり、ときには生活の相談にも乗ってもらっています。現在バディさんは、3歳から70代まで総勢20数名います。それぞれのペースで技能実習生たちを支えてくれています。様々な地域でこのような活動が広がり、豊かな多文化共生社会が実現することが私の夢です。

公益社団法人 트레이ディングケア 代表理事 **新美 純子**

さんぐりあ編集委員がおすすめするモノ・ヒト・メディア情報

NANGOC RECOMMENDS
なんごく りこめんず vol.70

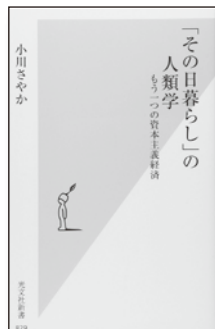
このコーナーでは皆様からの「りこめんず」を募集しています。NGOに関するあらゆる「おすすめもの」情報をおよせください。e-mail: info@nangoc.org ※「NANGOC」とはNAGoya NGO Centerの略です。



**「その日暮らし」の人類学
～もう一つの資本主義経済～**

小川さやか著

著者は、タンザニアの零細商人の商慣行を調査対象としてフィールドワークを行っている愛知県出身の人類学者。この本を読んでいると、「宵越しの金は持たない」江戸っ子の生き様を思い起こす。お隣同士で助け合うというのも、時代劇の長屋の生活を思わせる。とことん「今」を生きている生き方は面白いし、潔いし、スリルがある。なお、去年出版された同じ著者の作品「チョンキンマンションのボスは知っている: アングラ経済の人類学」は、今年、第51回 大宅壮一ノンフィクション賞、第8回 河合隼雄学芸賞を受賞している。



光文社新書(光文社)
2016年 740円+税

貝谷京子の
オススメ



揖斐菓匠庵 みわ屋

加藤美紅の
オススメ

自然豊かな岐阜県揖斐川町にある和洋菓子店。店内には、大野町産ローズの花弁を餡に炊き込んだ色鮮やかなお菓子など使用する材料の多くが、地元揖斐の特産物で顔のみえる関係のものばかりです。

店内で色々なお話を伺うと2015年にネパールで大地震が起きて以来、店員の牧村幸(みゆき)さんの思い入れのある国であったことから、募金箱を置き、ネパールで活動をする友人のNPOを通して支援を続けているとのこと。「支援は続けていくことが大切」という思いから職人の牧村昌幸(まさゆき)さんが『地産地消』×『フェアトレード』の商品を開発。春日産ほうじ茶の粉末とフェアトレードのネパール産シナモンとジンジャーのパウダーを使用した『ほうじチャイまんじゅう』を販売。「売上の一部を同NPOに寄付し、継続的な支援ができる仕組みができました」とお話ししてくださいました。和菓子から世界を感じてみませんか？



ほうじチャイまんじゅう

HP: <http://www.ibi-miwaya.jp/> FB: @ibimiwaya Instagram: gifumiwaya.ibi
住所: 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪925-9
営業時間: AM8:30~PM7:00 定休日: 毎週木曜日(祝・祭日は除く)

Nたまのいま

No.42



こんどう あいり
Nたま15期生 近藤愛里さん

名古屋NGOセンターが主催する、将来のNGOスタッフを育成する“次世代のNGOを育てる、コミュニティカレッジ”（通称Nたま）。2002年～2019年度までの17回で（2004年度はお休み）、研修を受けた方は250名。このうち、のべ143名のOB・OGがNGO/NPOスタッフの担い手として羽ばたきました。

約半年間の研修を終えた卒業生たちは、今どこで、どんな活動をしているのでしょうか？第42回はNたま15期生、近藤愛里さんにお話を伺いました。

はたけから食糧と環境の問題に携わる

■Nたまへの参加動機を教えてください。

大学では文化政策学部を専攻し、まちづくりを勉強していました。行政でも企業でもない民間団体に興味を持っていて、ハンガーゼロを紹介してもらったのをきっかけにNたまを知り、3年生のときに受講することを決めました。

■Nたまで印象的だったことは。

AHI（アジア保健研修所）合宿で、川から流れてくる赤ちゃんを下流で拾い続けるのか、上流に行って原因を突き止めてせき止めるのかの話聞いたことは印象的でした。飢餓で苦しむ人に魚を与えるのか、釣りの方法を教えるのか、ということですね。ハンガーゼロでは「釣りの方法を教える」ことを主にしていました。与えることが全く不要なわけではないので、考えさせられました。

■現在の「はたけぞく」に入社した経緯を教えてください。

Nたま受講中はNPOに勤めようか悩んでいましたが、一般企業に就職して実務経験を積むことにしました。まちづくりや場づくりに関わりたかったので、地域イベントを積極的に行う不動産会社に就職しました。その後、勤め先の会社で働く中でご縁があつて今の「はたけぞく」に入社しました。

「はたけぞく」は、自然栽培を行う2人の農家さんがオーナーのカフェです。農薬や肥料を使わない、自然栽培で育てた野菜やそれらを使って作った自家製の調味料を生かした料理を提供しています。

■お仕事のやりがいはどこなところにありますか。

直接NPOで働いているわけではないのですが、環境や食糧の問題に貢献できる場所ですね。自然栽培では根粒菌や土壌の虫を生かして栽培しているので生態系を傷つけないし、皮まで使えるからとても持続可能でエコですね。

一方で、自然栽培は環境に左右されることが多くすごく難しいです。慣行栽培は安定して大量に生産で

き、自給率を安定させるためには必要なことだと思っています。なので、「自然栽培だけがいい」と押し付けたいわけではないです。「はたけぞく」は貸し農園もしています。うまく育たなければスーパーで買う、で構わないので、食糧問題を考えるきっかけになればいいなと思っています。

■今後やっていきたいことはありますか？

スパイスの勉強をしています。転職期間にインドに行っていたこともあって興味を持ちました。今、日本ではオーガニックのすごい高いものか、どこで作られたかわからない輸入品しかないの、自分でカレースパイスミックスを作るのが夢ですね！

今回は「はたけぞく」のカフェで取材をしました。その際にスイーツセットをいただき、3種類ほど野菜を購入させていただきました。野菜本来の味がして、とてもおいしかったです。



スイーツセット。
自家製はうさくの
マーメイドと
赤しそのジュース付き。



閑静な住宅街にあるカフェ。
店頭で自然栽培の野菜を販売しています。

はたけぞく

住所：大府市共和町五丁目155番地（共和駅西口より徒歩10分） TEL:0562-57-7171

営業時間：9:00～17:00 <https://www.threeseeds-agri.com/>

Lunch 季節の野菜プレート 1300円(税込) Cafe スイーツセット(ドリンク付き) 750円(税込)など

(担当：高橋)

センターの動き

ネットワーク

ステファニ・レナト賞は「外国人ヘルプライン東海」が受賞

名古屋NGOセンターの創始者であるステファニ・レナト氏の意志を引き継ぐ人や活動を表彰する「ステファニ・レナト賞」の2020年度受賞者が決定しました。

本賞に選ばれた外国人ヘルプライン東海(設立2013年)は、東海地方の多文化共生社会を実現し住民の基本的な人権と生活を守るため、多言語ホットライン、外国人困り事なんでも相談会、コミュニティ通訳の派遣、翻訳事業などを実施しています。支援ケースは毎年増加し、昨年は過去最多となる104件のケースを受理。東海地方で暮らす外国人住民は年々増加しており、今後ますます地域から必要とされる取り組みであると言えます。

また、小規模ながらも有意義な活動を続けている団体を表彰する「奨励賞」、地域のNGOネットワークの発展に貢献している団体を表彰する「特別賞」には以下の団体が受賞しました。

●奨励賞受賞団体:(特活)キャンヘルプタイランド

戦争と平和の資料館ピースあいち
ニカラグアの会

●特別賞受賞団体:(公財)アジア保健研修所(AHI)

なお、「ステファニ・レナト賞」は2020年度を持ちまして終了致します。これまでご協力下さいました皆様に感謝申し上げます。

(報告:村山)

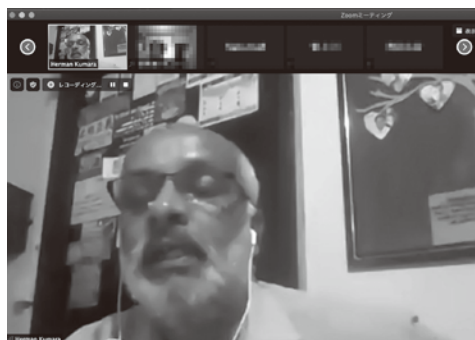
政策提言

コロナ禍に脅かされるアジアの市民社会に対して

政策提言委員会の会議は月1回ぐらいのペースで行っています。今年の4月からはZoomでオンライン会議にしています。やむなくオンラインに移行したわけですが、一か所に集まる必要がなく、遠い人、忙しい人にも参加してもらえるので便利だということに気がつきました。

現在、政策提言委員会で進めているのはコロナ禍のもとでのアジア各国での市民社会のおかれた状態の把握です。10月3日(土)には、オンラインで学習会を開催しました。フィリピンでは「反テロ法」が成立し、ドゥテルテ大統領は麻薬、汚職、テロの防止を言いながら超法規的な取り締まり(殺人)を続けています。カンボジアでは人権を侵すおそれのある緊急事態法が制定されました。当センターが構成団体となっているNANCIIS(市民社会スペースNGOネットワーク)は香港情勢に関わり「香港国家安全維持法の制定・施行に抗議する」という声明をだしています。フィリピンやカ

ンボジア、スリランカなどアジアで活動するNGOは名古屋NGOセンターの加盟団体のなかでも多いです。コロナ禍のなかアジア各国で人権が脅かされる状況が生まれています。日本のNGO団体にも関わる問題です。対処を考えていきます。



10月3日無料オンライン学習会
「コロナ禍に脅かされる
アジアの市民社会と私たち」

(報告:八木)

活動報告カレンダー 2020年3月1日~2020年8月31日

●ネットワーク

- ・シーテック クリック募金2020(6月~)開始
- ・「ステファニ・レナト賞」の候補者・団体募集(7/16〆切)
- ・横のつながりを作る勉強会「食と農から考える、今とこれからの「経世済民」(9/13)開催

●コンサルティング

- ・NGO相談(外務省NGO相談員): [3~8月404件]
- ・組織基盤強化のための伴走支援(イカオ・アコ)

情報発信	3月~8月	
ホームページ	更新回数	24
	ビジット数	159,450
facebook(フォロワー数1,257人)	更新回数	39
メルマガ(登録数266人)	配信回数	17

●情報収集・発信

- ・会報『さんぐりあ』5月号発行(1,000部)・発送(6/10)

●政策提言

- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言に対する声明を、NANCIISが発表(4/8)
- ・新型コロナウイルス緊急事態宣言に伴う東海地域の緊急経済支援策におけるNPO等多様な市民活動への支援措置に関する要望書を、東海地域市民社会ネットワークが提出(4/22)
- ・香港への「国家安全法」導入の動きを憂慮する声明を、NANCIISが発表(6/1)
- ・「新型コロナへのNPOの取組み情報共有

- 会」(東海市民社会ネットワーク主催)及び総会へ参加(6/14)
- ・NGO・JICA協議会へ出席(6/30@オンライン)
- ・香港国家安全維持法の制定・施行に抗議する声明を、NANCIISが発表(7/7)
- ・NGO・外務省定期協議会 ODA政策協議会 意見交換会へ出席(8/7@オンライン)

●運営

- ・総会(5/23)
- ・理事会(4/18,5/23,7/8)
- ・職員会議(3/17,4/21,28,5/12,19,26,6/2,9,16,23,30,7/7,15,21,28,8/5,18,25)

会員・寄付者、協力者の紹介 (順不同・敬称略)

2020年3月1日～2020年8月31日

●賛助会員(個人)

【更新(賛助会員A)】:

藤井朋子、裏見登志子、山田隆円、原田篤実、三浦哲司、中島正人、吉川典子、山田哲平、藤井典夫、川島紀之、鷺見三恵子、矢内淳、尾崎寿光、平野木恵、蟹江舟美、兼松真梨子、蒲池卓巳、福田正博、林滋、斉藤尚文、中島正、近藤公彦、伊佐次歩、水野洋計、松田則雄、桃井義博、加賀美薫、加茂省三、平尾秀夫、高野菜、松本恭一、篠田英次、加藤克也、塚田涼子、鉄井宣人、二角智美、加藤信一、龍田成人、堀田妙子、横山紀子、岩田崇、加藤里沙、田中幸男、近田千波、平尾秀夫

【更新(賛助会員B)】

高田信英、吉田英一、二宮由布子、平井英司、久野博司、竹内智子、西川侑里、園部吉規、山口大輔、松尾朋之、藤村昭子、山田淳一、中村裕

【新規会員】稲守宏夫、加藤晴美

みなさまのご理解に協力を
心より感謝申し上げます



●寄付者(物品なども含みます)

【一般寄付など】堀田妙子、廣井修平、加藤信一、龍田成人、横山紀子、伊藤幸慶、伊佐次歩、丹羽輝明、(特活)アユス 仏教国際協力ネットワーク、伊藤信道、伊藤武士、宇野菊夫、大島京子、太田貴久、大野博人、後藤文昭、酒井俊輝、水野愛、目加田貴弘、ムラのミライ、福田美津枝、山田志帆、尾崎寿光、林滋、遠山和子、連合愛知、岡谷鋼機(株)、(株)シーテック、ニカラグアの会、募金箱、匿名・不明

【募金キャンペーン】中島隆宏、伊佐次歩

【Nたまサポーター】山盛三千枝、辻諒、藤井朋子、遠山涼子、オヴァ・ママの会、八木巖、塩田匠弥、中島正人、田中幸男、石川博仁、鉄井宣人、堀田妙子、近田千波、岩田崇、長屋璃沙、木村容子、兼松真梨子、安藤澄江、林滋

【外貨】関屋初理、中垣貴裕

●アフィリエイト

アマゾン・ヤフー800円/楽天3,454ポイント

事務局のひとつこ

web会議システム、ビジネスチャット、ストレージサービス…。次々と生み出される新たなサービスたち。活用できれば効率的に活動を進めることができますが、新たなサービスを使うと、何か大切なものが失われるような気がします。新たなサービスを導入することで失われるものが何かを見極めて、上手に付き合っていきたいです。(田口)

編集後記

新型コロナという光学顕微鏡では見ることのできないウイルスの出現によって、グローバル社会を標榜してきた世界は一変。自分が住んでいる町の外に出ることすらままならない事態に陥った。なんていうこと!と思っていたのに、政府は「GO TOキャンペーン」などと言い出す始末。なんていうこと?(カイヤ)

コロナ禍の感染対策で編集会議も今号からオンラインに。どこからでも参加できたり、資料を共有できたりして便利な面もたくさんありました。一方で、みんなで海外のお土産を持ち寄って食べていたのが恋しくもあります。リアルとデジタル、いいところ取りできるようになるといいですね。(高橋里加子)

JICA中部オフィシャルサポーター
空木マイカ写真展

新しい世界の ヒントを求めて

2020
9.10 [thu.]

>>> 12.6 [sun.]

— 環境大国パラオのきおく —



コロナ禍において価値観や社会システムが少しずつ形を変えていく中で、ふと立ち止まり未来に何を望むのかを考える時、思い出すのはいつもパラオのことだった。

ゴミの分別を徹底して家庭のゴミを減らそうとしていたお母さん。子ども達に地球を守る力をつけてほしいと環境教育をしていた先生。再生可能エネルギーの導入を国として進めていた大統領。

自分が思い描く新しい未来のヒントがパラオにはたくさんあったような気がした。今回の展示ではその一つひとつをご紹介します。

あなたの思い描く「新しい世界」はどんな世界ですか？



なごや
地球ひろば

企画展「地球で生きる」同時開催中!



フェアビーンズでは、フェアトレード・オーガニック・シエイグロウンの3つの持続可能なコンセプトをできる限り追及した「フェアビーンズコーヒー」や、ホットチョコレート、フェアトレードチョコレートなどを取り扱っております。

今年も、フェアトレードチョコレートが入荷! 新作も予定されていますので、店頭にて是非お確かめください!



フェアトレード雑貨&コーヒービーンズショップ
フェアビーンズ

〒453-0872 名古屋市中村区平池町4-60-7
JICA中部なごや地球ひろば内
OPEN 11:00~18:00
CLOSE 月・水曜日※月曜日祝日の場合、翌平日休業
TEL 070-6412-3279
オンラインショップ
<http://fairbeanscoffee.net>

※現在営業時間が変更になっています。詳細はfacebookページにてご確認ください。
facebook: <https://www.facebook.com/fairbeansnagoyachikyuhiroba>

発行: 特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター
会報編集委員: 市川隆之、貝谷京子、高橋里加子、内藤裕子、久田夏未、村山佳江

協力者: 廣井修平、加藤美紅
レイアウト: 久由紀枝

発行日: 2020年10月23日
印刷: 山本印刷株式会社

特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目3番地 YWCAビル7F
TEL&FAX: 052-228-8109 URL: <http://www.nangoc.org>
E-Mail(代表): info@nangoc.org

会費・寄付は以下よりお願いいたします。

①クレジットカード <http://nangoc.org/membership/shien.php>

②郵便振替 (口座番号) 00860-5-90855 (口座名) 特定非営利活動法人名古屋NGOセンター